岳石

題字 浜名一雄

第 5 号　昭和50年10月 1 日

発行者 群馬県山岳連盟
〒371 群馬県前橋市大手町 1－1－1
TEL (0272)23－1111 内線519・520
群馬県観光課内
編集者 群馬岳連編集委員会
責任者 太田忠行
印刷所 (有) 高橋印刷
定価 1部50円

自然公園と登山

″ある雑感″

事務局　吉田茂作

″尾瀬は美しい所ですね″ ″谷川岳の岩場はすばらしいな″ 多くの山に登る人々の感想である。このような登山の対象となる山々は、国立公園などの自然公園と呼ばれる地域に含まれる所が多い。

そこで、これから自然公園の中での利用のあり方と、登山とのかかわり合いについて触れてみたいと思う。

日本は島国であるといわれるが同時に山国でもある。国土の約七割強に達する山岳地帯は、火山活動や四季のおりなす気象の変化によって、その景観も多種多様であり、特異で美しい山々が点在している。

古来、日本人が山に接する発祥は、山岳宗教による信仰の対象とされてからであって、スポーツ、あるいはレクリエーションとしての登山対象に変って行くのは、日本近代アルピニズムの先達であるウエストン師の日本アルプス紹介からであることはご承知のとおりである。

十八世紀にヨーロッパで芽生えた自然保護、あるいは郷土保護の思想の影響を受けたアメリカでは偉大なる自然を保護すると共にこれを野外レクリエーション利用の場にしようとする自然公園制度を十九世紀末に確立したが、これがわが国にも移入されて、昭和九年に至り最初の国立公園の指定を見たわけである。

ここにおいて、登山というものが、自然公園利用の一形態としていろ〳〵の形でかかわり合いを持ち始めたといってよいであろう。なぜなら、ウエストン師以後、現代流にいう登山の対象として我々に親しまれ、かつ畏敬の念を持って接してきた山岳の多くが、国立公園という一つの制度の中に入ってきたためである。

自然公園の利用は、一言でいって、自然からの教化を含めた野外レクリエーション活動であるといってよい。

野外レクリエーションには、あらゆる形で自然に接する方法があるが、登山、ハイキング、キャンピング、スキーなど直接利用するものや、休養のための温泉浴や、避暑などのように間接的、消極的に利用するものも見られる。このいずれもが、何らかの形で自然の恵みを享受することには変りはないが、直接的、積極的に自然を相手とする登山などの利用の方法が、より自然とのつながりが深いのは当然といえよう。

最近の自然保護のあり方については、本紙第三号で富山常任理事が詳細に触れているが、この自然を保全するひとつの側面として野外レクリエーションの場としての自然の持つ重要さが改めて認識されている。現代の都市化の進む社会環境の中で、生活環境のメカニズムからの逃避ないしは、意識の転換をはかる意味から自然に接しようとする人々が多い現代は特にその感が強い。

しかし、最も野外レクリエーションの必要性、特に自然の山野に接する必然性は、人間が原始の時代から山野をかけまわり、心身の機能が自然の中にあるべきものとして″人″が形造られており、この機能をまっとうさせるためには自然に接する機会をより多く持たなければならないということである。人間の姿は現代となっても、太古からの継承であり、やはり現代人といえどもその機能をはたすために自然に接する必要があるという考え方である。

そして、これらの場を提供する地域として、自然公園といわれる地域が最もふさわしい場所ともいえるのであって。さまざまな利用のタイプを通じて、自然からいろ〳〵の仕組みを教えられ、インスピレーションを与えられ、かつ、人としての本性に触れることができるのである。

登山するということは、このような自然の触れ合の中で最も積極的なものであり、この意味からいっても自然を享受する度合は、きわめて大きいものといえる。逆説的に考えれば、このように自然とのかかわり合いが深いが故に、その対象となる自然をいつくしみ、いつまでも変らない姿に保つことが必要なのではあるまいか。

何か焦点がボケてしまったようなまとまらないものになってしまったが、登山というものを、自然公園というものの中で、どのように考えられるかを思いつくままを記した次第である。

（群馬県観光課管理係長）

50年度 全国遭対協 湯沢で開かる

全国から約一六〇人の体協・警察、大学、高校、遭難救助隊、山岳関係の役員を集めて、七月十四～十五日新潟県湯沢にて開催された。

全国遭対協の活動や流れについて知ることができ、今後の岳連運営にも役立つと思われる。

第一日　特別講演　渡辺公平氏

この中で特に強調されたことは登山の安全性について。「山に危険があるのでなく、登る人の側にあること」又原点にかえり基礎的知識技術を学ぶことが大切であると話された。現在日山協で取りくんでいる課題は左記の通りである。

① 各県ごとに遭対協を設置する
② 救急法を各県各市で開催する
③ 登山届を統一する
④ 救助隊員の身分保障について

関係官庁に働きかける。

午后二時より「山岳遭難救助の実態と問題点について」、富山県長野県・新潟県の代表より事例発表があった。

第二日目　課題別研究協議が左記の内容にて開催された。

① 山岳遭難事故と気象要因について。（加藤出席）
② 航空機による山岳遭難事故の救助について（信沢出席）
③ 登山者の健康管理について
④ 山岳遭難における救助技術について（田中、八木、多賀谷出席）

第二日目午后　領域別研究協議

① 高等学校登山部の指導体制
② 大学山岳部の管理、指導体制
③ 救助体制のあり方と活動

本県からの出席者

信沢氏（体育課）吉田氏（観光課）八木氏（県警外勤課）多賀谷氏（沼田署外勤課）田中・加藤（県岳連）　加藤藤夫　記

岳連の行事予定

十月　国体（三重）
関東地区登山大会（神奈川）リーダー研修会
救助隊訓練（谷川岳）
関東地区協議会
岩登り講習会
登山実技講習会
カラコルム会議
冬山合宿検討会
十二月　ダウラギリⅣ報告会
ネパール・トレッキング

嶺呂（ねろ）のいわれ

嶺呂とは、万葉集の中に出てくる言葉で、嶺は、山々・峰々の意味で、呂は親愛・感動の念をこめて使う接尾語です。万葉集、上毛野国の歌の中に、「久呂保の嶺呂」（赤城山）とか、「伊香保の嶺呂」（榛名山）などという風に使用されており、群馬岳連の会報の名にふさわしいものと思います。命名者は浜名会長です。

久呂保の嶺呂は現在の赤城山のことで、クロホは山頂付近の黒々とした針葉樹林が遠望されるところから、ホは高くそびえたつ様子を言う言葉です。伊香保の嶺呂のイカホは、いかつい高い山、即ち国の中央に大きな山々がそびえたっている様子を表わしています。いずれも麓の人々が親愛をこめて呼んでいたようです。

かくされた山

叶山

藤岡山岳会

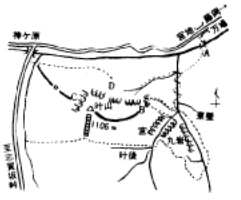
西上州の一角である神流川流域に連なる低山は、どれをとっても地味な静寂境である。そのような中にあって、岩に囲われた叶山は、特異な存在ともいえる。急峻な岩壁は見るものを圧し、なかなかの迫力を持っている。最近ここを訪れるクライマーも増えてきたようだが、いまだその静寂は破られていない。当会では十数年前から少しずつではあるが、この山に足を運び、その岩壁に非情なハンマーの音を響かせて岩をきづつけてきた。その甲斐あって何本かのルートが出来上った。灌本が多くスッキリした味はないが、変化に富む楽しめる岩場も多い。すでに主要な岩壁には人の身体がふれているが、まだまだ開拓する余地は残されている。叶山は牢口と呼ばれる深いルンゼによって、丸岩とに分断されている。丸岩は叶山の東端に位置する独立した岩峰であるが、叶山の一部とみてさしつかえないようである。

丸岩東壁左ルンゼ

さて叶山の岩壁は大きく四ブロックに分けるとA丸岩、Bビルディングフェース、C北壁周辺、D西壁になる。

Aブロック・東壁、南壁、牢口側壁になる。東壁は巾三百米、高度差三百米と大きいが、プッシュが多く、スッキリしない。現在四本のルートがある。左方にあるルンゼを除き技術的には非常に困難である。最長は十二、三ピッチほどあり、五米を越すハング帯もあったりで、体力を使う。左方ルンゼは下部が傾斜のゆるいフェースで初級者の技術訓練に恰好の場所である。南壁は百五十米の壁で灌水も少なくスッキリしている。開拓中のルートがあるが、まだ抜けていないようだ。牢口の抜口の左側にあり、叶後の盆地に面している明るい登攀欲の湧く壁である。牢口を登りこの壁に取付けば充実した山行も出来るだろう。牢口側壁は巨大であるが、いかにも暗く登る気の起らない壁である、ルートはない。

Bブロックは叶山中最大のスケールを持っている。ルンゼが左右にあるが、どちらも登られている。右のルンゼは途中から本流をそれて登られていて、五十米に及ぶ大滝を持つ本流は登られていない。登ってみたい場所である。三百米近い壁にはルートを開く余地はなく、すでに五本ほどルートがあるが私達は一本しか登っていないので詳しくは解らない。しかし岩質も悪く、傾斜もきついので、どこをとっても困難な登攀となると思う。



C、Dブロックについては紙面の都合上割愛させていただき、次にアプローチを書きます。藤岡、鬼石、万場とバスを乗り次ぎ、砥根平行の宮地で下車、バス停より少し戻り、橋の袂の民家の横より神流川へ下る。丸木橋が川に掛っているが、大雨の後などはずされていて徒渉を強いられる場合もある登山道に入れば一本道で迷うことなく牢口入口まで行ける。登山道は丸岩の東壁の下を通り、叶後へ行っている。登山道と別れ右の広い沢を巨岩をぬって行くと、十分程で牢口の入口に着く。牢口の手前の左岸の斜面に踏跡があり、それを辿ると三十分程で、ビルディングフェースの基部に着ける。丸岩の下降路は、ピークより東南へ四十米程の所より急なプッシュを下り、最後二十米の懸垂で登山道のすぐ近くに下れる。登山道を左へ辿れば、東壁の下を通り宮地へ下ることが出来る。ビルディングフェースは、登攀終了点より叶後側へ椎木の斜面を下れば良い。牢口に落ちこむ沢の横に登山道があるので、それを辿れば丸岩の肩を通り、元の道と合流している。

（文責、金沢　斉）

悪天候をはねのけて
救助隊訓練

谷川岳の山開きは雨の日が多い、旧指導センター前にて、一般登山者に安全登山を呼びかけたのち一の倉沢出合に急ぐ。出合では岩場にとりつくクライマーも天候が悪く躊躇している様であった。

午前五時西山隊長の挨拶を受けたのち、二パーティーにわかれ霧雨に見えかくれする滝沢下部を目指して訓練を開始した。参加者三十二名（内隊員二十七名）は西山隊長田中副隊長の指示のもとに一系乱れず本番さながらの救助訓練を行い、午后は一の倉沢出合の小屋にて全員によるミィーティングを行い今後の技術の向上施策を検討し散会した。

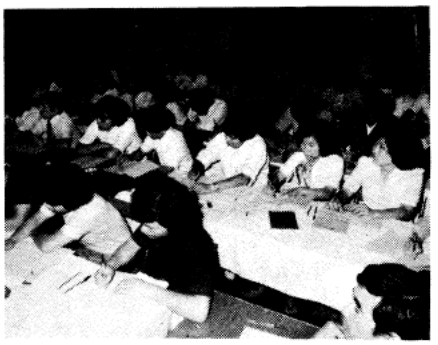
訓練内容

① 滝沢下部雪渓上にて、ウインチ・ディスクによる引上げ、引下しの技術

② 固い雪質でのデットマンによるアンカーのとり方の技術

③ ワイヤー梯子を使用してのシュルンドへの上下降の技術

（遭対部記）



天気図講習会

日　時　6月26日・27日・18時

会　場　前橋市体協会館

指導員会では机上講習の一環として二日間にわたり天気図講習会を行った。参加者60名。（写真は真剣に受講する参加者達）

藤岡山岳会紹介

昭和30年創立、みかぼ山岳会として発足し32年に藤岡山岳会に改め岳連に加盟、41年藤岡山稜会を加え現在に至る。三年毎に会誌みかぼを発刊、剣、穂高、上越の山を主に活動。会員数26名、事務所鬼石町48金沢斉方、Tel〇二七二一二五五

会長白本昌宏、代表四方田利男。

会員募集

女子雪氷クラブ

連絡先　前橋市日吉町2－2－17
浅野さつき方
TEL　0272－33－7001

大型写真パネル・風景・撮影
あなたの山行のネガでパネルにしませんか。

須田フォート光芸

前橋市総社町植野225　－22
TEL　0272－51－0206

カラコルム偵察隊報告

海外登山研究会

最初に、今回の偵察行に寄せられた多くの方々からの暖かい御支援御協力を感謝しこの誌上を借りて厚く御礼申し上げます。

カラコルムという言葉には、男のロマンを掻き立てる響きがある。多くの日本人が、チベット、コンロン、テンシャン、カシミールといった中央アジアの地に憧れを抱いているが、我々もその憧れを抱き続けていた一人である。そして、その地に聳えている山々に特にひかれている。カラコルムを日本語に訳してしまえば「黒い石屑」と言う意味で、味も素っ気もないものになってしまう。雪と氷の大山脈をカラコルムと呼ぶのはおかしいなどと深く詮索するのはよそう。男のロマンの入る余地が無くなってしまう。その語感の持つ響きの良さも然る事ながら、そこに存在する山々に今では大きくひかれているのだから。

長い間、カシミールの帰属をめぐる印・パ紛争の為に鎖されていたカラコルムが、紛争の終結と共に解禁されたと聞いた時、胸おどる思いだった。胸の奥に抱き続けて来たカラコルムの山々に、現実に登る事が可能になったからだ。さっそく情報を得るべく、昨年の十一月金沢で開かれた第十六回HKTに小暮さんと一緒に参加した。しかし、すぐにはメンバーも見つからず、本当に実現できるのだろうかという不安もあって、具体的な計画がたたないまま年を越してしまった。けれども、研究会のカラコルム・グループでは、その間も少しづつ情報収集と資料づくりが進行していた。

最終的にメンバーが決定したのは、二月の岳連合同新年会が行われた直後であった。カラコルムの登山期間は五月から八月までが良いとされている。六月上旬出発までに三ヶ月程しかなかったが、他の研究会メンバーの助言と協力を得て、計画は急速に具体化されていった。三月二日第一回の準備会を行い目標地域も決定した。最初の計画では、カラコルムを広く知るために、ヒスパー氷河からビアフォ氷河の縦断というものであった。三月十二日に仮計画書を作成して配布したが、その後、HKTからの通信でギルギット、フンザ方面には入域できないと知らせて来た。地震の為にインダス河ルートは各地で崩壊して通行不能となっており、新たに建設中のカラコルム・ハイウエイ沿線には中国兵が入っている為、完成するまでは外国人の立入りを禁止しているとの事であった。ギルギットまで空路では入れそうだが、フンザまでは行けない。実質的にヒスパー氷河には入れない事になる。目標地域を変更しなければならなくなった。スカルドを基点とした地域には入れると言うので、最初の計画地域のビアフォ氷河周辺を中心に考え直した。八千米峰がずらりと並んだバルトロ氷河も魅力があったが、なるべくなら、日本人の入っていない地域をと考え、今回のバインターブラック、ラトック山群の北面を踏査する計画となったのである。

パキスタンに関する我々の知識は、非常に貧弱なもので北部のカラコルム地域以外は、回教徒の国でヒンズー教のインドと犬猿の仲であるとか、公用語はウルドゥー語と英語が使われているといった知識しか持ち合せていなかった。異郷の地に遠征するのが初めての四人にとっては、すべてが（準備段階から）不安の材料だった。渡航手続きや準備段階での遅れやミスを繰り返しながらも、やっと出発の日を迎える事が出来た時には、これからの期待に胸ふくらますというよりも、ホッと一息いれた安堵感の方が大きかった。

六月九日羽田よりPIA機で出発。途中北京空港に一時間程立ち寄り、イスラマバード空港に夜中の一二時に到着。パキスタンの第一歩を踏み出した。通関手続きの前にルピーに交替。通関手続きは非常に簡単で、パスポートのチェックがあるだけで、荷物はぜんぜん調べられなかった。ただ、翌朝レジストレーションの申請を行い、ポリスに出頭して許可をもらうように言われた。（我々は語学力不足からここで大失敗をしてしまい出国する時にそれがわかった）

この空港は、新しく東京～北京～イスラマバードという空路が開かれたため、工事の真最中で近い将来立派な国際空港になるのではないだろうか。夜中の到着でホテルに泊れるか心配であったがとにかくタクシーでラワルピンディの街へと向う。夜のラワルピンディはとてもすずしくて、聞かされていた猛暑など想像できなかった。

心配した通り、日本人に馴染みのミセス・デービス・プライベート・ホテルへ行くと他を捜してくれとことわられた。他のホテルと言われてもまったくあてがなかった。タクシーの運ちゃんに頼んで捜してもらい、駅近くのホテルにようやく落ち付く事が出来たのは午前二時過ぎであった。

翌日、さっそく街へ出て先ずポリティカル・オフィスで外国人登録を済ませる。（大失敗と言うのは、この後警察で許可を取らなければならなかったのに、空港ではつきり聞き取れず警察へ行かなかったのである。警察の許可書がない場合には、パキスタンから出国できなくなってしまう）

日中の暑さは噂通りのもので、直射を受けた所は摂氏五〇度以上になる。室内にいても暑いけれども、日本の様な蒸し暑さはない。しかし、動くのがおっくうな程暑くて、何か仕事をする気にはならない。最初我々の泊ったホテルは朝食しか付かなかったので、後二食は街の食堂で食べなくてはならなかった。三、四日は安食堂でチャパティやフライドライス等を食べていたが、四人共猛烈な下痢におそわれて、げっそりしてしまった。そんな事から、三食付のデービスホテルに六月十七日に移る。

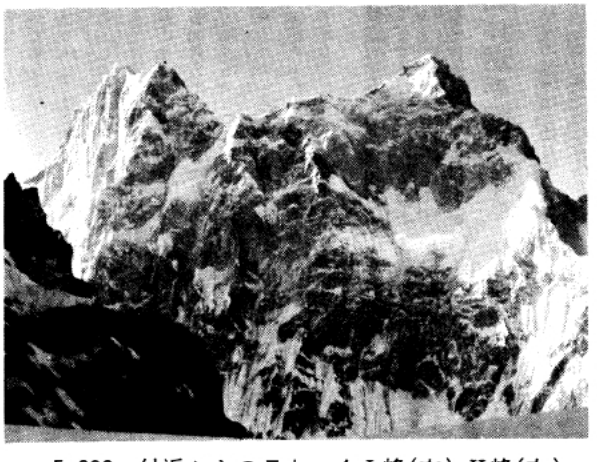
このホテルは、まさに遠征隊用ホテルであった。

陸路が閉鎖されている為にスカルへの交通機関は飛行機だけがたよりであった。窓口はPIAがあつかっているが、地元民の為もあって、全面的にパキスタン空軍がバックアップしている。一般ツーリストは二、三週間待たなければ乗れないとの事であった。我々も、七月まではだめだと言われた。何んとかねばって六月二四日の便を予約したが、天候しだいでどうなるかわからない。この気力を無くさせる猛暑のラワルピンディに二週間もいるのかと考えると、このまま帰ってしまいたい気持におそわれる。

パキスタンでの登山では、気の遠くなる時間の長さ（待たされる時間）と、猛暑に対する気力と体力と、原地食に耐え得る胃袋とを持ち、すべてに耐える精神力を養成しておかなくてはならないなあと痛感した。そうでないと山を見る前にヘバッテしまう。日本人の勤勉さも時によりけりだ。アプローチの段階でまいってしまう。

つづく

（文責奥原彦治）



5,000m付近からのラトックI峰(左) II峰(右)
7,145m 7,108m

Kanai
スポーツ用品・スポーツ服装全般
カナイ スポーツ前橋店
前橋市城東町3－1－1（上電プラザ内）
TEL 0272（32）6113

冬山装備！
オリジナル二重靴
羽毛製品
軽量テント　出来ばえご覧下さい
山とスキーの店 石井
伊勢崎市中央町18－8　TEL 0270－25－0272

雪崩研究会報告

指導員　中原正喜

期日　昭和五十年三月八日～九日
会場　長岡市
目的　日山協の遭難対策特別事業の一環として実施されている「雪崩の研究と調査」事業で、雪崩については、登山領域の中でもっとも研究開発の遅れている分野であり、登山者自身による雪崩の研究と調査を行い、雪崩の成因から、遭難事故対策までの範囲についての研究を行う。
参加者　阿久沢広（登高会）桜井進（太田）中原正喜（ミヤマ）
内容　八日　沢木勇二講師
・昭和四九年一月一日～十二月卅一日までの雪崩遭難の実体、・冬山遭難の$\frac{1}{3}$が雪崩による。・死亡事故の$\frac{2}{3}$は雪崩による。・雪崩事故の約半数の埋没者が死亡。・パーティー人員の$\frac{1}{3}$は死亡している対策としては、リーダー権の強化や危険な場所の通過に対して間隔をあけて最少の犠牲に留める。また消極的な方法であるが雪崩紐や電波探知器の使用は、それらを使用することにより雪崩に対する警戒意識があり結果的に事故をふせぐ雪崩に対する見方としては雪崩にあうのは計画、判断が甘い。
・よく雪崩の中を泳いで助かったという話しを聞くが偶然性の問題で比重の問題から考えても問題にならない。・雪崩遭難者の60％は窒息死であるから、雪崩がしまる時に雪がしまるから口の廻りに空間を作る様に手などでガードする姿勢をとれば生還のチャンスが大きい。
・デブリの中から帽子手袋等が発見された場合、人間の比重が重い為、帽子手袋より下流に位置する
・遭難者を発見した場合。まず体の一部を発見したら、顔を最初に堀り出し、呼吸しているか脈拍はあるかどうか確かめ、呼吸が止っている場合は人工呼吸（マウス・トウ・マウス）脈拍が無い場合は心臓マッサージを行う。両方とも止まっている場合は人工呼吸、心臓マッサージを交互に行う
・呼吸が止まって一分以内に人工呼吸すると97％が助かり、二分以内だと90％、三分だと75％、四分だと50％になる。四分間呼吸が止まると心臓は停止し脳に血液が供給されない為に生命は助かっても脳細胞が破壊されて植物人間になってしまう。四分以内の呼吸停止だと仮死で生命の助かるぎりぎりの範囲内で八分以上の呼吸停止だともはや絶望である。
・金坂一郎講師より現地説明
雪の断面を作りそこにインクを撒くとインクの色が濃く出る場所と薄く出る場所があり濃く出る場所は雪の粒が小さく色が薄く出る場所は粒が大きく・その位置より上の雪が雪崩として出やすい。
・国立雪害研究所見学。
・雪崩経験談
・剣岳で雪崩の雪煙により、雪が口、鼻に張りつき窒息死の例があった。・剣岳黒部側において立木が雪崩のため切り口が刃物できれいに切ったようちなっていた。
九日・金坂一郎講師
雪崩の発生には日本雪氷学会の雪崩分類では点発生、面発生雪崩がある。点発生雪崩は、ある一点が崩れ、下にいく程広がる雪崩で、どちらかというと乾燥雪の表面部にみられる。また湿潤雪にもみられる雪崩であまり大きくはならない。
面発生雪崩はかなり広い面積にわたり、いっせいに動き出す雪崩をいう。日本の積雪期登山で問題になるのは、この面発生雪崩で急斜面の吹きだまりから出るが斜面の角度は35°～50°のものが多い。雪崩の発生しやすい場所としては稜線の風下側の吹きだまりが多く事故の例として前日降雪があり今日降雪なしの天候で、21件中二割の率で雪崩に会っている。又今日の降雪での雪崩事故は21件中の八割今日昨日も降雪なしは一割の率であり、この例でわかるとおり降雪中の発生は八割の率で確率が高いから降雪中の危険な場所の通過はやめた方がよい。・雪崩の流れ方は一般的に言って先端は巻きこむような流れ方であり後尾は表面的には静かに流れている。雪崩が止まる時にデブリの上へ上へとかぶさるようにのし上ってくる、・クラストに積雪があると五・六日後に霜ザラメ雪に変化し雪崩が出やすくなるから注意が必要である。
感想　この研究会は毎年二回二地域で開催され参加人員は各会場30名ずつであり今年は北海道と長岡で開催された。我々登山者側としてはなかなか雪崩の勉強をする機会は少なく本で勉強するぐらいであるがこういう研究会に毎年岳連から参加者を出せればよいと思う特に印象に残ったのは地元の人々の心あたたかいもてなしであり富山新潟県の人々との交流が出来たことであった。

岳界通信

国体選手団決まる

本年度の国体は、10月26日から三重県台高山系で行なわれます。従来と異なり、監督一・選手は成年三・少年三の計七名で二パーティを監督が兼任します。代表は次の通り。**監督**村上泰賢（高体連）
成年山鹿良一・内田光男（富士重工）・関仙治郎（中之条山ノ会）
少年土屋智明（高工）・小野勇（中之条高）高橋純路（伊工）

二種指導員検定に合格

過日行われた日山協二種指導員検定で本県の石川忍（桐生）女屋等志、宮崎勉（以上ミヤマ）生田三郎（太田）の四氏が合格した。また、三種（県内）指導員に大沢博、阿久沢憲太郎、小林信夫、高橋秀明、武井清、戸所桂一、栗本久、高橋賢志の八名が合格した。今後の指導員試験は講習会へ出席した者を対象に行われる模様。

遺体発見、収容
今冬の滝沢リッヂの遭難

去る一月五日一の倉滝沢リッヂ稜線から転落して行方不明になっていた鵬翔山岳会員三名の遺体が9月8日に二の沢付近にて発見された。雪渓から出ていたアイゼンとザイルの一部から発見されたもので、この三人の遺体発見で昨年からの冬山シーズン中の行方不明者はない。

本場のアルプスへ

藤岡山岳会員松原幸雄氏（二三才）は七月一八日から八月一日までの間、ヨーロッパアルプスへ出かけ、ユングフラウ、マッターホーン（ルンリ稜等を登りました。

関東高校登山大会

九月一二～一四日・谷川岳を会場に第19回関東高校登山大会が開かれ、一都七県五百余名の高校生が参集し、五つのコースに分かれ晴天にめぐまれた初秋の谷川連峰に足跡を残し、友情を深めました

グランドジョラス北壁登攀を断念

グランドジョラス北壁の登攀を目指し、トレーニングを続けていた群馬独峰会会員内田志郎（三〇才）および小暮仁志（四五才）の両氏は七月二八日ツールロンドにおいて、同行の斉藤和春氏（二六才・諏訪市在住）が落石に遭い怪我をしたことから同登攀を断念しモンブラン・ミディ・マッターホーン等を登って八月一六日帰国した。

カラコルム調査隊帰国

隊長・奥原彦治・隊員・山田昇・岡庭　清・小林　清の四名からなる。カラコルム調査隊は、六月七日から八月二十二日の間、無事調査目的を達して帰国した。調査隊はチョクトイ氷河から、シム・ラ峠を越え（史上二番目）シムガン氷河・ビアフォ氷河一帯の貴重な資料を収集することができた。尚報告会は九月十七日県民会館にて、多数の参加者を得て終了した。

谷川岳山開きの日安全パトロール

ここ数年雨の山開きとなったが雨にもめげない登山者に対し、旧指導センター前で、安全登山と美化運動の呼びかけを行ない、記念バッヂとゴミ袋の配布を行なったその後パトロールを実施したが、当日の岳連参加者数は、三十七名でした。ご苦労様でした。

尾瀬の美化バタヤさん

八月二日～三日の二日間、尾瀬ゴミ拾いに、赤石副会長以下十三名（桐生・松井田・登高会、太間々、富士重工・境）の人達が参加観光課の人達と協力して、尾瀬ヶ原一帯のゴミ拾いを行なった。
最近では美化運動協力者の努力で登山道付近からゴミの数は少なくなったけれど、登山者の立場として不断の協力が大切と思います参加の皆さんご苦労様でした。

ダウラⅣ（カモシカ同人）隊員壮行会盛況

カモシカ同人隊（代表・高橋和之）のダウラギリⅣ峰遠征隊に、群馬から四名の隊員が参加し、なかでもミヤマ山岳会からは、八木原・宮崎の二名が参加することになり、七月十五日　前橋の問屋町センターで盛大な壮行会を開催し前途を祝した。

八木原隊員らの近況
9／23付の手紙より

こちらはまあまあのペースで山登りが進み明日はC2入り9／28にC4を我々が建設しそのまま内院へ。11日間も高度順応のための荷上げを全隊員が順番で行っています。これが前回の失敗で得た新方式です。何んとかして帰りたいものです。

会報寄贈御礼

「岡山岳連」二号、三号、四号
「兵庫山岳」九八号、九九号
「愛知岳連ニュース」一六三号
一六四号
「ときわ木」（神奈川岳連報）
四九号・五〇号
五一号

編集後記

今回もまた原稿〆切間際に原稿が集り過ぎうれしい悲鳴。割つけ見出しに思いをめぐらし一年が経過した。この辺で一本筋の通った編集を打ち出したいものだ。太田